



気付き、考え、高め合う「かがみっ子」～行動～

鏡小学校だより

HP <https://es.higo.ed.jp/kagami/>

第11号

R7.7.8

文責 桑原 理子



6月は「心のきずなを深める月間」でした

熊本県では、6月を「心のきずなを深める月間」と定めています。学校・家庭・地域が連携し、子供同士はもちろん、子供と教職員、保護者や地域住民等との「心のきずな」を深め、いじめを許さない学校・学級づくりを目指して、いじめの未然防止に重点を置いた取組を各学校において実施しています。本校では、「あのねアンケート」と教育相談、全校集会における校長講話、児童委員会の校内放送、水曜日の全員遊びの推奨等を実施しました。また、7月の授業参観(本日)では、すべての学年で人権学習を公開しました。近年、「いじめ」の問題は深刻な課題として、ニュースや新聞等にも取り上げられています。昨年12月に実施された「熊本県公立学校心のアンケート」の結果では、「いじめられたことがある」と答えた子供は、小学生が16.6%、中学生が4.3%、高校生が1.0%、特別支援学校が3.3%となっており、このうち、3割の小学生が「だれにも話していない」と回答しています。

子供たちが安心して学校生活を送るためには、子供たちの心の変化にいち早く気付き、迅速かつ適切に対応することが最も重要であると考えます。学校と家庭、地域で連携し合い、子供たちが安心して相談できる心の拠り所となり、安心・安全な学校生活を実現していきたいと思います。ご家庭におかれましても、お子様との会話を大事にしていただく、裏面のチェックリストを参考にされるなど、お子様の様子を見守っていただき、変化が見られた場合は、ぜひお知らせください。

「あのねアンケート」と教育相談、「なんでも相談窓口」の設置について

すべての子供たちが、不安なこと、心配なことについて、「誰かに相談できる」「誰かが必ず話を聞いてくれる」と感じてくれるよう、本校ではいつでも、なんでも、誰でも、誰にでも、相談できる体制の充実に努めてまいります。心配なこと、不安に思われることなどありましたら、遠慮なくご相談ください。

全校集会では・・・

全校集会の校長講話では、宮澤章二さんの『行為の意味』の、「思いは見えないけれど、思いやりは見える」「心は見えないけれど、心づかいは見える」という一節を紹介し、「思いやりや心づかいを行動で表そう、やさしさいっぱいの鏡小にしよう」と話しました。そして、「いじめや差別は『する側』の問題です。あなたは、どんな人になりたいですか。いじめを許す側、許さない側、どちらの立場に立ちますか。」と投げかけました。暑い中、子供たちが真剣に聞いてくれてうれしかったです。(これも思いやりですね。)自分の生き方や立つ位置を自分自身に問い合わせながら、行動の奥底にある「心」を振り返ることのできるかがみっ子になってほしいと思います。

「思いやり」「心づかい」

学校では、かがみっ子の「思いやり」「心づかい」を毎日のように見ることができ、大変うれしく思っています。ある雨の日は、登校時、荷物をたくさんもった1年生に傘をさしかけながら登校する上級生の姿がありました。(自分は濡れていきました)ある日は、泣いている下級生に声をかけ、一緒に教室に付き添ってくれる上級生の姿がありました。6年生は毎日のように1年生と一緒に遊んでくれています。私が校内を歩いていると「校長先生こんにちは！」と元気にあいさつをしてくれます。登校時、横断歩道で止まってくれた車にお辞儀をして感謝の気持ちを伝えるかがみっ子の姿があります。「思いやり」や「心づかい」は『行動』で表さなければ相手に伝わりません。かがみっ子の素敵な「思いやり」「心づかい」がさらに広がり、やさしさいっぱいの鏡小学校になってほしいと願っています。



文書配付、HPにてお知らせしています。ご活用ください。